



## 採用に関するお問い合わせ

防衛装備庁

長官官房人事官付 採用担当

〒162-8870 東京都新宿区市谷本村町5番1号

電話 03-3268-3111 (内線番号 35168)

採用HP <https://www.mod.go.jp/atla/saiyou>



◀ 採用情報はこちら

※本採用案内は令和6年2月に作成したものであり、その時点での情報を掲載しています。  
※本採用案内に掲載されている写真・文章等の無断転載・複写を禁止します。



A c q u i s i t i o n , T e c h n o l o g y & L o g i s t i c s A g e n c y

防衛装備庁

技術系研究職  
採用案内

その研究開発が  
安全保障を支える。  
あなたの研究は、世界規模だ。

戦車、護衛艦、戦闘機、誘導武器。

日本の安全保障は、数多くの“防衛装備品”により確立されています。

情報・通信・サイバー関連技術や

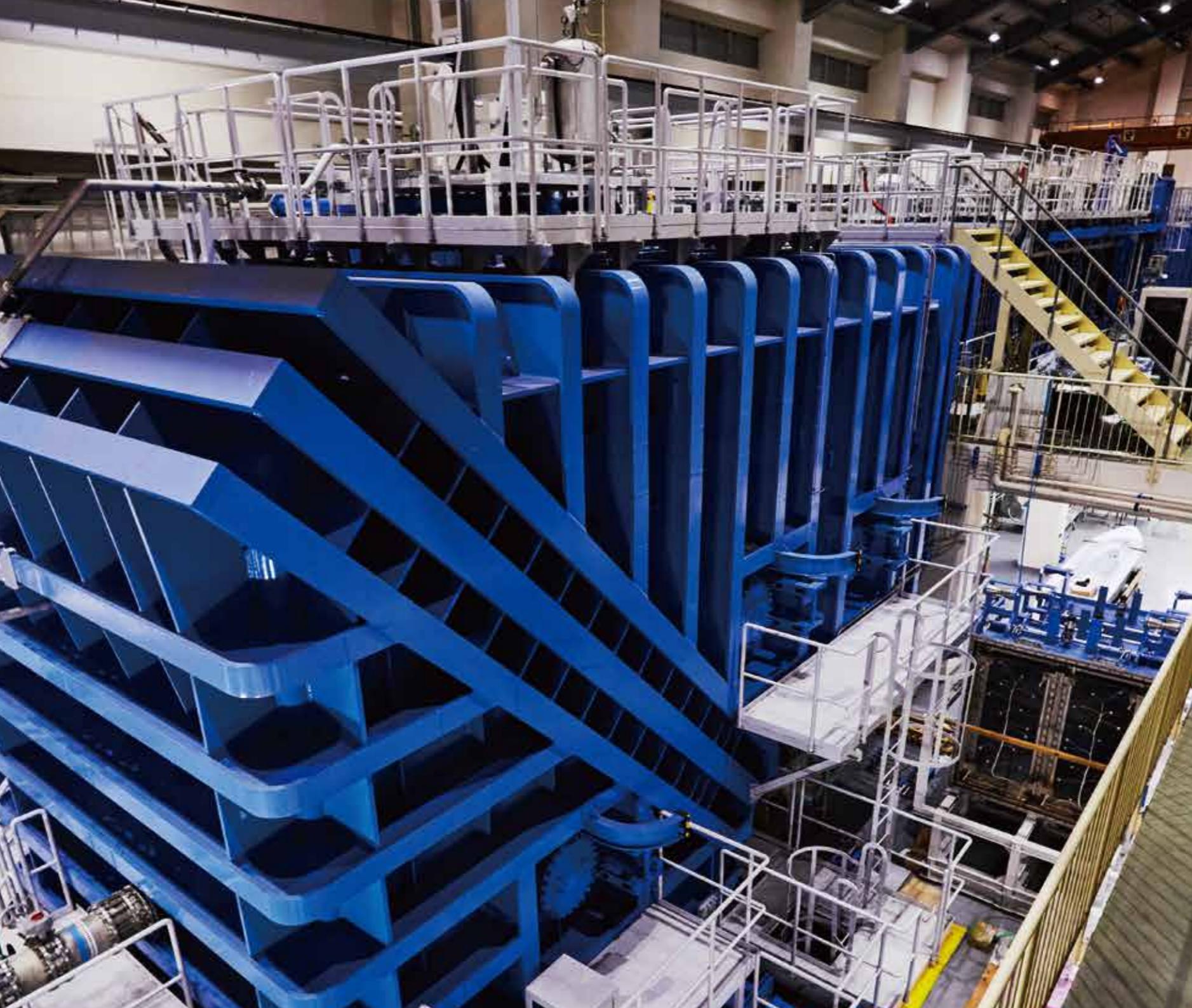
宇宙領域、電磁波領域もわれわれの範疇となっており、

世界の最先端技術が結集するフィールドであるとも言えるでしょう。

防衛装備品の研究開発。

そこにはあなたが活躍できる環境と、

圧倒的なスケール感があるはずです。



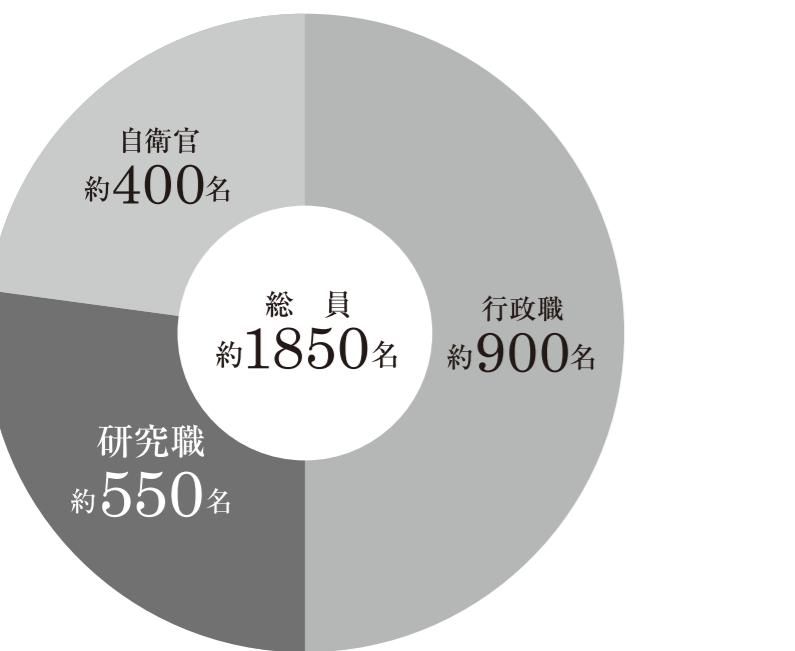
## CONTENTS

- 
- 03 目次
  - 04 防衛装備庁の概要
  - 06 研究開発の流れ
  - 08~17 研究開発部門の紹介
  - 18 試験場・支所等
  - 20 研究開発で活躍する職員（研究）
  - 22 研究開発で活躍する職員（開発）
  - 23 政策の企画・立案で活躍する職員
  - 24 防衛装備庁外で活躍する職員（他省庁への出向）
  - 25 防衛装備庁外で活躍する職員（留学）
  - 26 キャリアパス
  - 28 職員の1日に密着
  - 30 ワークライフバランス
  - 32 若手職員に聞く“学生時代と今 Before After”
  - 34 採用に関するQ&A
  - 35 採用情報

# 防衛装備庁の概要

防衛装備庁は、平成27年10月、防衛省の外局として設置され、装備品等について、その開発及び生産のための基盤の強化を図りつつ、研究開発、調達、補給及び管理の適正かつ効率的な遂行並びに国際協力の推進を図ることを任務としています。長官の下に技術面での責任者である防衛技監、陸・海・空の将官及び技官の4名による装備官、庁内の所掌事務に関する総括整理をし、長官を補佐する審議官が置かれ、長官官房及び5部のほか、研究所・試験場等で構成されています。

## 定員



## 組織図

※令和6年2月現在の情報を記載しており、令和6年4月以降に組織改編を予定しています。



# 研究開発の流れ

防衛装備庁では、陸・海・空の各自衛隊の現在の運用ニーズに基づく研究開発だけでなく、将来想定される運用ニーズと技術シーズに基づいた装備品の将来構想を描き、その実現に向けた研究を計画的に実施しています。装備品の開発においては、各自衛隊等の要求を踏まえて、研究成果や過去の開発の教訓を活用して試作を行い、その試作品を用いて機能や性能を技術的に評価する試験を実施します。



## 防衛装備庁における研究職技官の役割

主に防衛装備品の研究開発に係る業務に幅広く従事し、次の4つの役割を担っています。

1 研究者として、基礎となる知識及び技術を十分に会得した上で、研究開発と装備行政に関わること。

2 プロジェクトリーダーとして、大規模なグループを円滑なコミュニケーションと統率力でまとめ、困難を乗り越えていくこと。

3 行政官として、他省庁とも密接な対話・連携を取りながら効率的な装備行政を進めていくこと。

4 グローバルな人材として、確かな語学力や国際的視野を持ち、諸外国との交流や重要性の高まる国際共同研究開発、装備・技術移転の場で活躍できること。

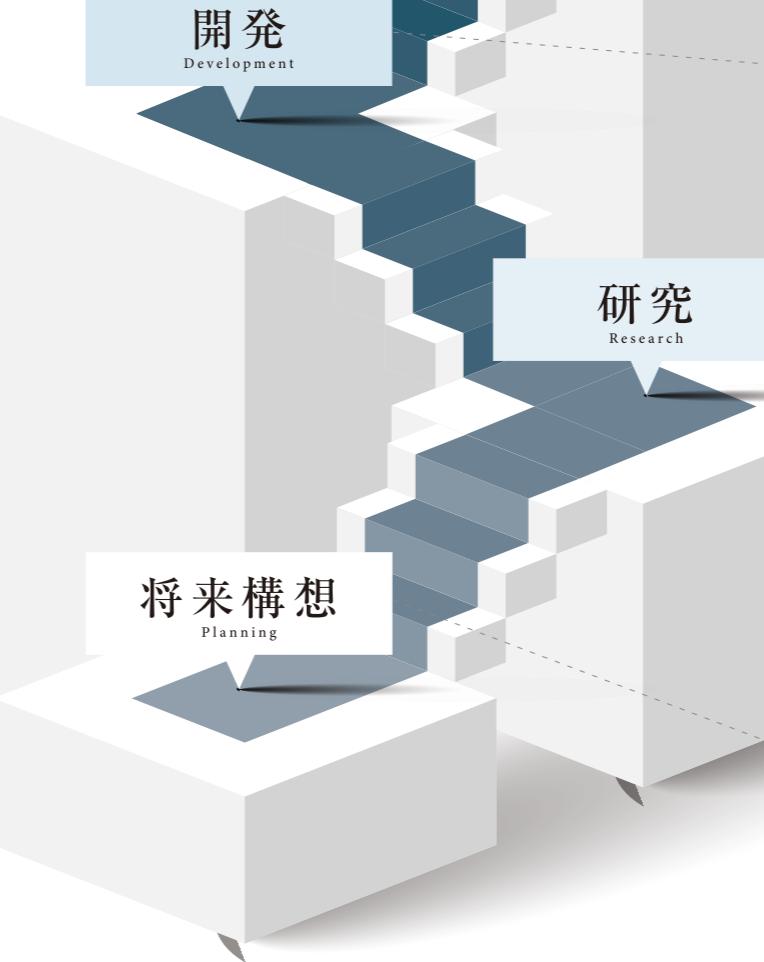
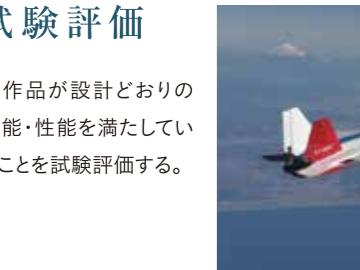
## I 装備品の研究開発



### 試験評価 Test & Evaluation

#### 試験評価

試作品が設計どおりの機能・性能を満たしていることを試験評価する。



#### 開発

各自衛隊等のニーズを踏まえ、装備品の開発（試作）を行う。



#### 研究

装備品の創製に必要な要素技術等について研究する。



#### 将来構想

技術的なシーズや運用上のニーズを基に装備品の将来構想を描く。

研究

# 航空装備 研究所

Air Systems  
Research Center

航空機・無人航空機の機体システム、エンジン、誘導武器に関する研究・試験評価を担当。スタンド・オフ防衛能力や無人アセット防衛能力を早期に獲得するため、宇宙航空研究開発機構(JAXA)や米国空軍研究所(AFRL)等の国内外研究機関との協力、機械学習コンテストを通じて軍民先端技術を取り込み、要素研究やシステム研究を精力的に取り組んでいます。



Air Systems Research Center

Ground Systems  
Research Center

研究

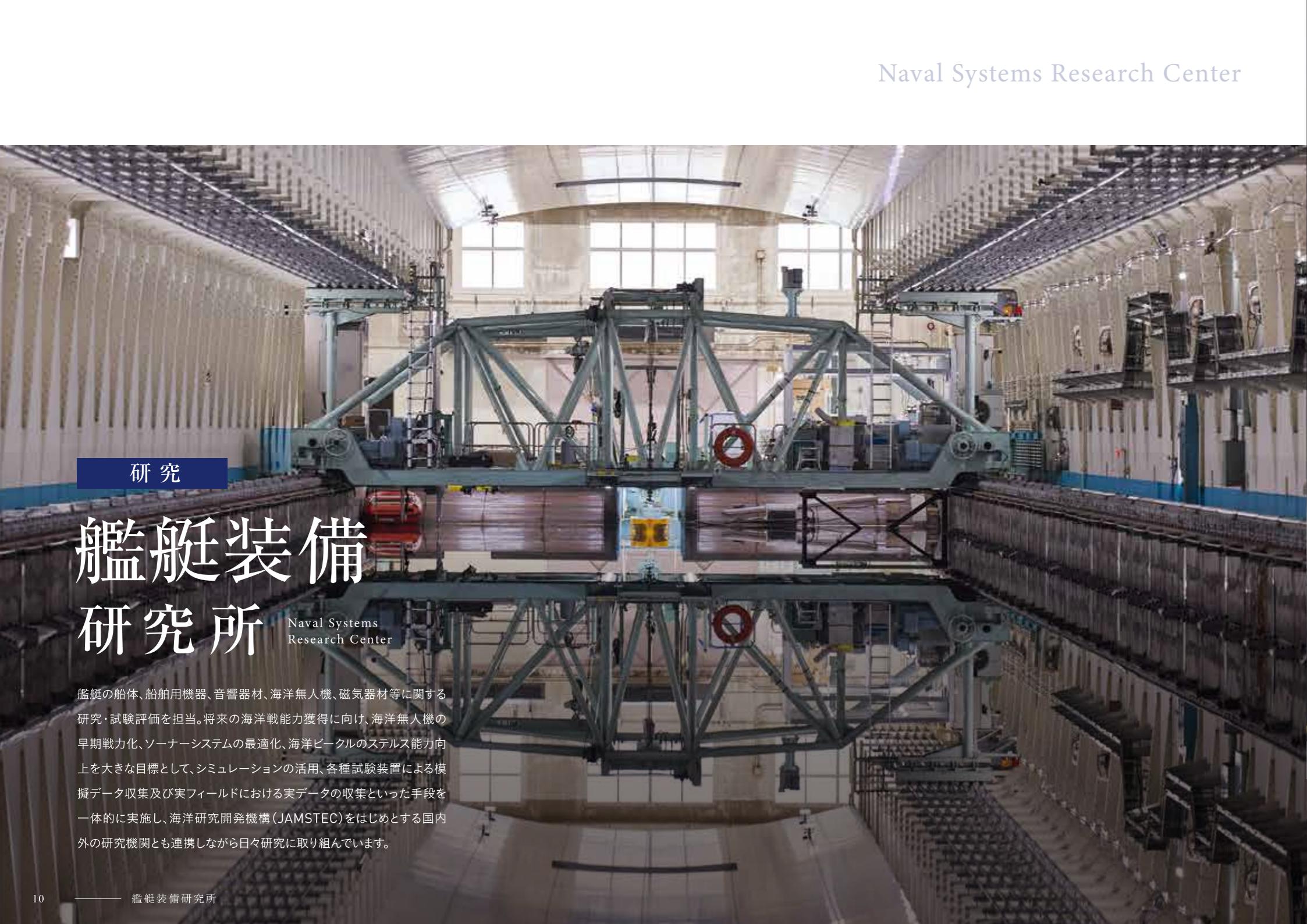
# 陸上装備 研究所

Ground Systems  
Research Center

火器、弾薬、耐弾・耐爆、車両、施設器材、CBRN対処器材や個人装具等に関する研究・試験評価を担当。レールガン、無人車両といった将来の防衛装備品の早期実現に向け、各自衛隊を含めた防衛省内の関係機関と綿密に連携するとともに、国内外の研究機関とも協力し、防衛分野特有の基盤的な技術の維持・向上を図りつつ、民生の先端技術を取り入れながら研究を進めています。



陸上装備研究所



Naval Systems Research Center

**研究**

# 次世代装備 研究所

Future Capabilities Development Center

※令和6年度に組織改編予定

各機器は複数の機能を有する複合的な装置で、主に電磁波領域（レーダー、通信、光波等）に焦点を当てた研究開発を行っています。近年の軍事技術の進展により、戦闘様相が多様化・複雑化する中、従来の研究開発手法では対応しきれない課題が増加しています。そこで、新たな研究開発手法や組織構造を確立し、より柔軟な対応を可能にするべく、組織改編が計画されています。

Future Capabilities Development Center

## 艦船設計

# 艦船 設計官

Naval Ship Design  
Division

海上自衛隊のニーズに基づき、護衛艦や潜水艦から小型の支援船まで、すべての艦船について、建造実績、各種研究、国内外の法規、将来技術の調査・分析等を踏まえた設計基準の作成、各種試験やモデリング・アンド・シミュレーションによる検討及び評価、建造に必要な図面の作成等、幅広い艦船の設計業務を担当。



Naval Ship Design Division

## 開発

# 装備開発官 統合装備担当

Joint Systems Development Division

陸・海・空を問わず自衛隊が必要とする誘導武器(いわゆるミサイル)及び関連する器材の開発を担当。近年では、長距離を飛しょうし高精度に目標へ到達するスタンド・オフ誘導弾、多様化、複雑化する目標等に対処するために必要となる防空誘導弾等、防衛力の抜本的な強化に向けて優れた誘導武器の研究開発に取り組んでいます。



装備開発官(統合装備担当)

開発  
装備開発官  
陸上装備担当

Ground Systems Development Division

我が国の国土防衛に不可欠な火砲、弾薬、戦闘車両及び指揮・統制・通信・情報システム等の開発を担当。従来の陸上装備に加えて、飛来してくる小型UAVを無力化・破壊することを目的とした車両搭載型の高出力レーザー等、従来の戦い方を一変させる「ゲーム・チェンジャー」の装備化に向けて、研究開発に取り組んでいます。

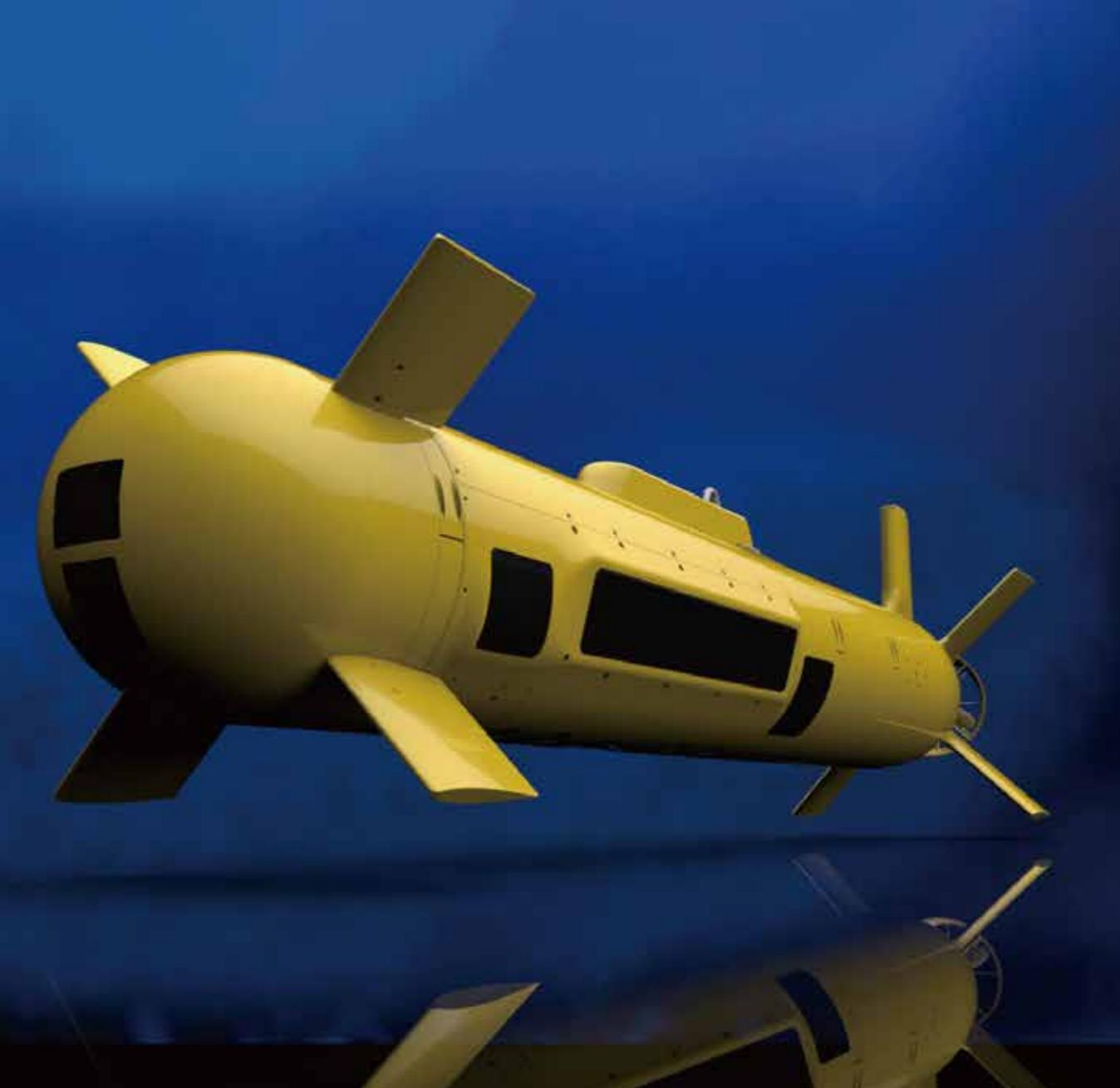


開発

# 装備開発官 艦船装備担当

Naval Systems Development Division

艦船設計官との連携の下、護衛艦、潜水艦等の機動力・捜索能力・攻撃(防御)能力向上のための搭載機器・武器に関する開発を担当。護衛艦用のレーダ・無線通信装置、ソナー、魚雷・機雷、潜水艦用の電源装置、水中無人機(UUV)等多岐にわたる装備品を試作し、実際の艦艇に搭載して試験を行うことで開発事業を実施しています。



Naval Systems Development Division

開発

# 装備開発官 航空装備担当

Aerial Systems Development Division

陸・海・空自衛隊の多様な任務に対応するために哨戒機、輸送機、ヘリコプター等の各種航空機及び搭載するエンジン、アビオニクス等の開発を担当。SH-60Kの後継機として、我が国周辺の海域における対潜戦の優位性の確保、海賊対処をはじめとする各種事案への対処を目的として2023年に開発が完了したSH-60L等、国防の要となる各種航空機の研究開発に取り組んでいます。



Aerial Systems Development Division

Fighter(F-X) Development Division

※令和6年度に組織改編予定

開発

# 装備開発官 次期戦闘機担当

Fighter(F-X) Development Division

F-2の後継機として、将来のネットワーク化した戦闘の中核となる役割を果たすことが可能な各種任務に活用する次期戦闘機の開発を担当。流体、構造・材料、熱空力・推進、制御、電気・電子、通信、人間工学等広範な分野の研究者が集結し、グローバル戦闘航空プログラム(GCAP:Global Combat Air Programme)として英国及びイタリアと密接に協議をしながら、国際共同開発事業を進めています。



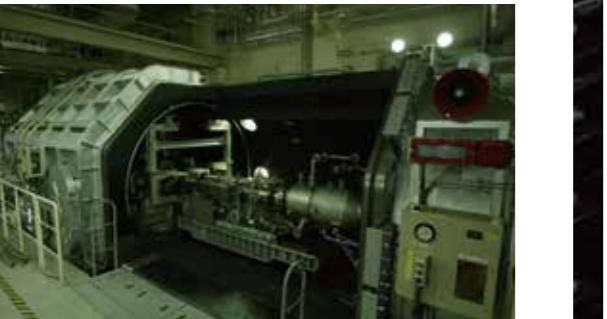
※次期戦闘機の画像はあくまでイメージであり、最終的に決定されたものではありません。

装備開発官(次期戦闘機担当)

# 試験場・支所等

大規模な試験等を実施するため、3つの試験場と各研究所の支所を所有しています。

## 千歳試験場



燃焼風洞装置（テストチャンバ）



千歳試験場全景

我が国最大のエンジン高空性能試験装置及び三音速風洞装置等を有し、航空機及び誘導武器の性能評価になくてはならない施設です。また、様々な車両走行性能を評価可能な車両定地試験施設もあり、多くの装備品の創製に寄与しています。

## 下北試験場



射爆試験における試験配置及び弾着点



爆破試験における爆破の状況

昭和34年3月に青森県下北郡東通村に設立されました。広大な試験面積を活かし、射撃その他火薬類を使用する方法による火器及び弾火薬類の性能に関する試験を行うことが可能な、国内有数の試験場です。近年は、ドローンを活用した試験支援や安全管理の要領を検討する等、従来の手法に縛られず自由な発想で研究を実施しています。

## 岐阜試験場



試験計測用航空機BK-117



テレメータ計測車

航空自衛隊岐阜基地内に所在し、防衛装備庁が開発した航空機及び航空機搭載用機器の性能に関する飛行試験並びに航空機を使用して行う航空機搭載誘導武器の性能に関する試験を実施し、その評価を行っています。また、試験計測用の回転翼機を用いて、各研究所が行う装備品の試験研究の支援も行っています。

## 土浦支所 (航空装備研究所)



土浦支所全景



ロケットモータの燃焼試験

## 新島支所 (航空装備研究所)



射場



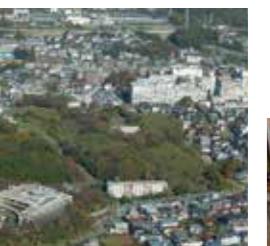
誘導武器の発射試験

国内唯一の誘導武器専用の発射試験場を有しています。国内で開発されたほとんどの誘導武器はここでの発射試験を経て装備化されています。

## 川崎支所 (艦艇装備研究所)



川崎支所全景



試験施設

艦艇や車両等の磁気低減、航空機等による磁気探知、水中電界による目標探知等、磁気及び水中電界等に関する研究を行っています。

## 飯岡支所 (次世代装備研究所)



飯岡支所全景



RCS計測用バイロンと実大模型

## 岩国海洋環境試験評価サテライト (艦艇装備研究所)



水中無人機試験棟



大型音響水槽

国内唯一の屋外RCS\*計測場や可搬型の計測機器を利用して、自衛隊の航空機、艦艇、車両等の高精度なRCSの計測といった、電磁波計測技術の研究を行っています。

\*

RCS:Radar Cross Section (レーダ反射断面積)

# Branch Office

# 研究開発で活躍する職員(研究)

## 巨大な水槽設備を用いて 艦艇の効率・性能を確認する重要な役割。

私は主として水槽試験の実施に携わっています。私が所属する艦艇装備研究所には長さ247m、幅12m、深さ7mの大水槽があります。水上艦や潜水艦を設計する際に、試作品である縮尺模型をその水槽で走らせ、その船体形状での効率や流体性能、運動性能を確認します。

最近の仕事では大水槽に水中モーションキャプチャを導入し、遠隔操縦で走る模型を使って運動性能を計測できる環境を構築しました。

## 先進の技術に関わりながら 国を守るというやりがいを強く感じる。

島国である日本において艦艇等の装備品の重要性は高いものとなっており、そのような装備品の研究開発に携われることで国防の一助となることが実感できます。

また技術面では装備品というままで普段関わることのないものに関わり、かつ、そこに使われている歴史ある技術から最新技術まで幅広い技術に触れられることが大きな魅力です。また、様々な技術や知識を持つ職員が多く在籍しており、日々新しい知識を学べる環境もあります。

## 学生時代に学んだことは確実に役に立つ。 それは、自信を持って言えること。

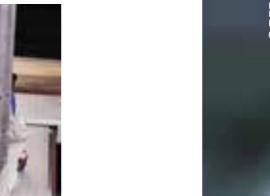
防衛装備庁の研究職は技術課題を解決するために日々挑戦と学習の連続です。もしほんなさんが研究職の応募を検討しているのならば、今、学んでいることをしっかり身につけることが重要だと私は考えます。

今後、防衛装備庁で働く中で様々な課題に直面することになるでしょう。しかし学生時代に学んだ内容や方法はきっと役に立ちますので、今手がけている研究にしっかり取り組んでください。

*Message*



Profile  
艦艇装備研究所  
艦艇・ステルス技術研究部 流体研究室  
令和元年入庁／一般職・大卒／電気・電子・情報



# 研究開発で活躍する職員(研究)

## 想像もしていなかった 大規模な研究開発に携われる面白さ。

私は学生時代には想像もつかなかっただれの一大規模な研究開発プロジェクトに携わり、政策に直結するオフィスワークから関係部署や海外とのやり取り、レールガンの研究に必要な技術検討、野外試験への参加、シミュレーション技術の習得等、幅広い業務に取り組んでいます。最近ではレールガンシミュレータを用いてレールガンのモデルを作成し、電磁場解析・構造解析に取り組んでいます。



Profile  
陸上装備研究所  
弾道技術研究部 火力・防護力評価研究室  
令和4年入庁／総合職・大卒／化学・生物・薬学



## 幅広い業務から得た知見が 仕事に活かせた時、自分の成長を感じる。

先述の業務以外にも海上試験等多くの試験の中で試験工程、計測、試験評価法、安全管理等を習得。それらの幅広い知識と経験を蓄積することは大きなやりがいであります。また、こうして得られた知見や先輩方から学んだことが、担当する業務に役立てられたときに成長を感じることができます。

装備品の研究開発という裏方でありながら多くの場所・人・ものに関わり、日本の安全に貢献できることが防衛装備庁の最大の魅力だと思っています。

## できないと決めつけずにチャレンジする。 自信を持って取り組める環境がここにある。

学部卒で研究職だったので入庁前は自分の実力に見合っているのか不安がありました。入庁後、学生時代の専攻とは大きく異なる研究に携わり、時に難しいと感じることもありますが、できないと決めつけずにかくやってみるという精神を大切にしています。

たとえ知見がなくても先輩方から多くのことを学びながら自信を持って業務に取り組むことができます。自信がないと言って避けずに、いろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。

*Message*

# 研究開発で活躍する職員（開発）

## 3か国共同で行われる 次期戦闘機エンジン開発プロジェクト。

私は現在、次期戦闘機のエンジン開発に携わっています。次期戦闘機開発は日英伊で行われている国際プロジェクトで、エンジン開発も3か国共同で進めています。開発業務と聞いて1日中、黙々と作業しているイメージを持つ人もいるかもしれません、実際には各国の政府・企業が集まり開発の方向性や設計に係る課題の解決策を話し合う会議に参加する等、開発を進めるために必要な多岐にわたる業務を行っています。

## 日本では誰も成し得ていない プロジェクトに携われる喜びと難しさ。

この次期戦闘機の開発は、日本ではかつてないほどの大規模かつ複雑なプロジェクトです。他国との言葉や文化の壁、前例がない事業であること等により極めて大変な開発ですが、それらを乗り越えて3か国が同じ目標に向かって進んでいった先に生み出される次期戦闘機を想像すると、ものすごくワクワクします。

我が国で誰も経験したことのない開発に取り組めること、それがこの仕事の一番の魅力だと思います。

## 前例にとらわれず挑戦すること。 その気持ちを忘れずに、応募してほしい。

日本を取り巻く安全保障環境が目まぐるしく変化していく中、防衛装備庁が取り組むべき課題も大きく変化しています。私が携わっている次期戦闘機の開発はその筆頭ですが、前例にとらわれず、新しいことにチャレンジする気持ちがこれまでになく重要なプロジェクトです。チャレンジ精神は防衛装備庁の仕事には必要不可欠なもの。そのような志を持って、大きな使命を持つ防衛装備庁に飛び込んでもらいたいと思います。

*Message*



Profile  
長官官房 装備開発官（次期戦闘機担当）付  
エンジンシステム開発室  
平成28年入庁／総合職・院卒／工学

# 政策の企画・立案で活躍する職員

## 国ごとに違う体制や進め方。 各国の技術が活かされるよう、調整・交渉を行う。

私は同盟国や同志国の国防省等との共同研究プロジェクトにおける調整業務に携わっています。各国で研究開発プロセスや体制が異なるので、各国が持つ技術力を把握し、相互の理解を深めつつ共同研究を検討することが重要になります。お互いメリットのあるプロジェクトになるよう、時には厳しく相手国や関係各所と調整・交渉を行っています。

## 対外的にインパクトある研究の公表。 政策を通して研究のもたらす効果を最大限に。

諸外国との共同研究は、互いの技術レベルを高めるという技術的な側面での効果はもちろん、注目される技術分野の共同研究においては、対外的なインパクトも期待されるため、時には防衛相会談等のハイレベルな協議の場で言及されることもあります。技術戦略課では、政策部門として対外的な公表やこうした会談に向けた準備、関係各所との調整等を担当し、研究部門が取り組む共同研究事業のもたらす効果が最大限となるよう、サポートしています。

## 本気でひとつの分野の研究に取り組む。 それは将来必ず、自分の支えとなる。

就活生の方々に伝えたいことは、今行っている研究活動に一生懸命取り組んでほしいということ。入庁後、どの事業に関わっても、ひとつの分野の研究に数年間本気で取り組んだ経験は必ず自分の支えとなるはずです。防衛装備庁の業務を進める上で求められるコミュニケーション能力や調整能力、計画能力等の素地は学生時代の研究活動から得た部分が大きいです。

指導教員や共同研究者、研究室の仲間との時間も大切にしてほしいと思います。

*Message*



Profile  
技術戦略部 技術戦略課 技術交流室  
平成28年入庁／総合職・院卒／工学

## 防衛装備庁外で活躍する職員(他省庁への出向)

日本の“知”を支え、  
科学技術の未来を支える仕事。

私は文部科学省で国が定めた戦略目標の下、基礎研究を戦略的に行う“戦略的創造研究推進事業”的主担当をしています。本事業を運営する科学技術振興機構(JST)担当部署の所管業務に取り組むほか、毎年度の戦略目標の策定の取りまとめや事業予算の確保、事業改善等も私の業務です。またJSTのシンクタンク部門の所管業務にも取り組んでいます。

防衛装備庁から離れて出会った  
分野の違う方々との関わりが成長になっている。

防衛装備庁から大きく離れた文部科学省という立場から、職場の同僚のほか、大学の先生方やJSTの方々とも話す機会がたくさんありました。国際競争の中でどのように戦っているのか、どのようなものを見てどのように考えているのか、共通する部分もあれば違う部分もあり、そこには学ぶことが数多くありました。防衛とは大きく違う仕事や人と関わる中で、自らの立ち位置や考え方を見つめ直すよい機会になっていると思います。

就職活動をする方々に伝えたいのは  
自分を偽らず、熱意と覚悟と人間関係を大切に。

仕事の原動力は熱意と覚悟と人間関係だと思います。熱意がない仕事が味気ない作業になりますし、覚悟して踏み切らないとうまく進まないこともあります。また、人間関係が悪いと職場の居心地が悪いだけではなく、やりたい仕事も満足にできなくなります。大人な対応も大事ですが、自分を偽り続けるのは難しいです。面接には、防衛装備庁が自分に合うか合わないかを判断するつもりで臨んでほしいと個人的には思っています。

Message



Profile

文部科学省 科学技術・学術政策局  
研究開発戦略課 戰略研究推進室 室長補佐  
(併) 参事官(国際戦略担当)付 参事官補佐  
平成20年入庁／防I・機械 Ph.D.

## 防衛装備庁外で活躍する職員(留学)

留学のきっかけは  
人工知能を使った航空戦が注目されたこと。

入省後は火器管制システムやアクチュエータの研究、実証機X-2の飛行試験に携わっていました。その後、留学のタイミングで人工知能を使った空戦AIが注目されるようになり、今後このようなAIの“説明性向上”が極めて重要なとの認識から、“説明可能なAI”をテーマとした留学をすることに決めました。

人工知能による操縦を現実化するために  
必要な研究を行っている。

留学先で私が研究している“説明可能なAI”。この研究では機械学習を使ってエージェント(よりわかりやすく言えばロボット)の行動を交通標識のようなシンボルに置き換え、そのシンボルを路線図のようにつなげ合わせることでロボットの一連の行動を人間にわかりやすく提示することを目指しています。この研究の発展はロボットが操縦する航空機が何をしようとしているのかをユーザーに一目で提示できる未来につながります。

家族との時間と大学で研究をする時間  
留学の成功には、両方が必要。

私は妻子帯同で留学しているので、妻の理解とサポートがとてもありがたいと感じています。週末は家族でショッピングモールまで買い出しに行ったり、娘の友達家族と一緒にBBQしたりしてリフレッシュ。こういったオフの時間の充実が研究での高いパフォーマンスにつながっています。家族といふ時間と大学で研究する時間を両方しっかりと確保することが、留学を成功させる上で大切だと感じています。

Message

Profile  
航空装備研究所  
航空機技術研究部 搭載装備研究室  
平成26年入省／防I・航空



# キャリアパス

研究職技官は入庁後初任研修等を通して、社会人としての基礎的な素養を身につけるとともに、防衛装備府の研究開発や陸・海・空の各自衛隊に関する基礎的な知識を学びます。初任研修後は各研究所等に配属され、それぞれが配属された装備品の研究・開発・設計プロジェクトや試験評価等に携わり、その技術分野の研究

手法、試験評価方法等を習得し、研究職としての素養を身につけます。その後は、個人の能力・適性等に応じて、研究所での勤務に加えて、装備技術に係る各種政策の企画・立案、国内外への留学、海外勤務、他省庁への出向、民間企業の人事交流等多様な経験を通じ、キャリアアップをしていきます。



## 研究員級

防衛省・自衛隊のサイバー防衛能力向上に向けて、装備品に対するサイバー攻撃を早期に検知・対処するための研究をしています。最近は、研究企画やそれに係る情報収集が業務の中心です。サイバーセキュリティ技術は民生での技術革新が凄まじく、またそれを装備品という特殊な環境下で活用するために、日々情報収集をしながら考えを巡らせることが大変です。一方で防衛装備府はアカデミア・民間企業・自衛隊等、多くの人と意見交換する機会があるので、日々発見があります。それがこの職場で働く魅力であり、やりがいです。

次世代装備研究所 情報通信研究部  
サイバーセキュリティ研究室 研究員  
令和5年入庁／総合職・院卒／化学・生物・薬学



## 課長補佐級

入庁後はCBRN(化学・生物・放射性物質・核兵器)に対する防護装備品の研究開発に携わっていました。現在は将来に向けて革新的な民生技術を発掘・育成する業務を担当しています。この仕事の魅力のひとつとして挙げられるのは、業務を通じて大学や企業等の最先端技術に触れることができる点です。ロボット、AI、半導体等、自分の専門分野と異なる分野の専門用語や専門知識を理解して業務を進める必要があります。防衛装備府としての新しい取り組みであるため、困難に直面することもありますが、上司や同僚とのチームワークで立ち向かっています。

技術戦略部 技術振興官付  
安全保障技術研究推進班 技術振興企画専門官  
平成18年入庁／防I・化学



## 研究室長級

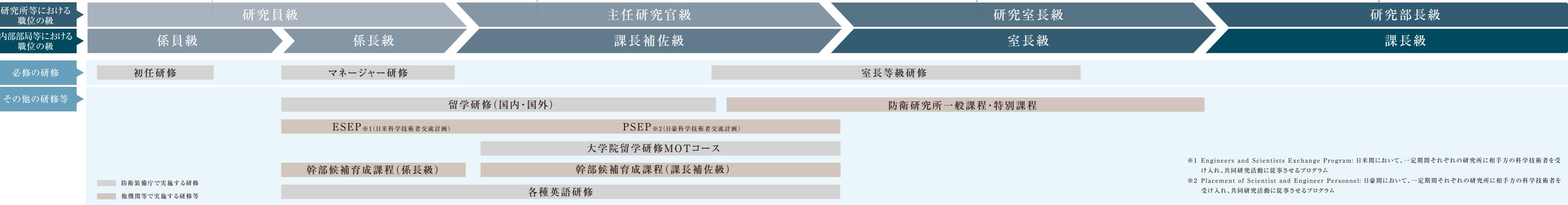
私の所属する部署は、防衛装備府の中でも他とは少し異なる業務を行う部署です。将来の装備品を担う可能性のある先端的な技術について調査・発掘し、技術を有している研究者等とディスカッションしながら防衛装備品への適用可能性の検証を進めていくことを主たる業務として行っています。新しい技術の可能性を広げる楽しさとともに技術を検証する形に落とし込むために派生する課題も併せて解決していくなければならない難しさがあります。新しいことを常に取り込むチャレンジングな姿勢が求められ、常に学びが必要となります。そこを含めてやりがいのある仕事だと思います。

次世代装備研究所 先進技術研究部  
情報伝送機能研究室長(併)新規機能研究室長  
平成11年入庁／防I・電子



## 課長級

私が所属するプロジェクト管理部は装備品を計画的に開発・整備し、ライフサイクルを通して高い能力や稼働率を保てるよう事業計画を整え、進捗を管理することが主な役割です。日々変わる情勢に対応するため国内外から情報を集めて必要な体制やルールを整備し、生産技術基盤を担う防衛産業の健全性を維持していきます。の中では対外的な発信や説明を適切に行う必要も。日々新たな情報に接することもあり、学ぶ機会の多い職場であると感じます。チームとして安定して力を発揮するため、職員のプライベートを大切にし、互いを伸ばし支え合う環境作りを課の運営方針としています。



※1 Engineers and Scientists Exchange Program: 日米において、一定期間それぞれの研究所に相手方の科学技術者を受け入れ、共同研究活動に従事させるプログラム

※2 Placement of Scientist and Engineer Personnel: 日豪において、一定期間それぞれの研究所に相手方の科学技術者を受け入れ、共同研究活動に従事させるプログラム

# 職員の1日に密着

評価というフィールドから  
装備品の研究開発をサポートする。

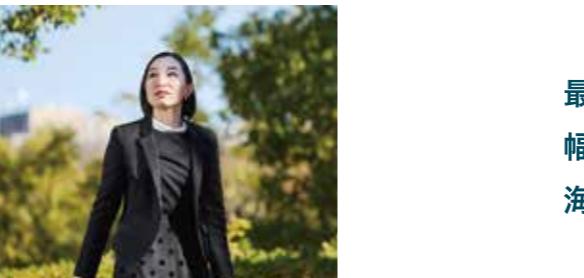
現在の仕事は装備品等の研究開発について、技術的な観点からの評価や政策評価等、様々な評価に関する業務を担当しています。具体的な仕事は多岐にわたりますが、研究開発が関わる政策・施策等の目的に照らし合わせて、目標や研究開発過程、生み出される結果や成果等を評価することにより、今後の事業に役立てていきます。



資料内容を確認。公開される重要な資料については関係部署とも密に連携し、技術的な面から記載内容に問題がないか入念にチェックをします。



研究所とミーティング。高官への説明に向けて事前調整を実施します。オンラインでも実施でき、お互い効率的に仕事をできる環境が整っています。



登庁後、業務開始。まずは資料の作成です。説明資料は簡潔に伝えることを意識して作成するように心掛けています。過去の経緯等必要な資料を用意することも重要です。



技術戦略部 技術計画官付 技術評価室  
平成22年入省／防・電子

最新技術や法規等  
幅広い知識で  
海上から日本を守る。

私が所属している研究室ではUSVやUUVといった海洋無人機に関する研究を行っています。具体的な仕事内容のひとつは海上試験や運用が円滑に実施できるように、海洋無人機が海上航行する場合に考慮すべき法規についての調査です。もうひとつは海洋無人機で必要な技術である自動運航に関する要素技術の調査で、安全評価の検討や荒天下航行に関する研究等を行っています。



艇装備研究所 水中対処技術研究部  
無人航走体基盤研究室  
令和5年入庁／総合職・院卒／工学 Ph.D.

最新技術や法規等  
幅広い知識で  
海上から日本を守る。

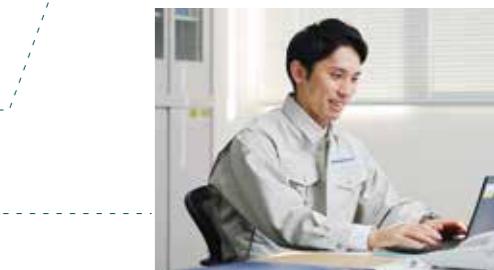
海上で実施する試験計画を立てるために、必要な機材やその配置等を検討します。計画に漏れがないよう細心の注意を払います。



海上で実施する試験計画を立てるために、必要な機材やその配置等を検討します。計画に漏れがないよう細心の注意を払います。



民間企業と意見交換や打ち合わせを行います。最新技術を把握し、研究開発への活用方法を検討します。会議中は適宜メモを取ることを心掛けています。



船の性能を検討するために使用するプログラムの作成及び計算を実施。その後、得られた結果を資料にまとめます。わかりやすい資料作りを心がけています。

# Daily Schedule

# Work-life Balance

## ワークライフバランスを推進しています

ほぼテレワークの短時間勤務。  
子どもと一緒にいられる時間を  
多くしながら働きたい。

私は出産後も取り組み続けたい仕事があったので、現在は夫や親族の協力を得ながら10時～15時55分を勤務時間とする育児短時間勤務で働いています。出勤する必要がある日以外は基本的にテレワーク用のパソコン端末を使用して自宅で仕事。在宅の日は、論文等の文献調査やオンライン学会での情報収集を積極的に行ってています。産休は令和5年7月～10月に取得。生まれてまだ数ヶ月です。防衛装備庁は、各種勤務時間の制度やテレワーク、そして何より職場の理解があるので、こうして子育てをしながら仕事ができ、充実した毎日を送ることができます。



### 仕事と家庭生活の 両立支援制度

職員の仕事と育児・介護等を両立するための様々な制度があり、多くの職員が活用しています。(あくまでも一例です。)

#### 不妊治療休暇

不妊治療に係る通院等のため年間5日の範囲内で休暇を取得できる制度(場合により10日)

#### 産前・産後休暇

出産予定日の前6週から産後8週までの期間、休暇を取得できる制度

#### 育児休業

子が3歳に達するまで、子を養育するために認められる休業制度

#### 配偶者の出産休暇

男性職員が妻の出産に伴う入退院の付き添い等を行うために休暇を取得できる制度(2日)

#### 育児参加のための休暇

男性職員が妻の産前産後期間中に出産に係る子または小学校就学前の子を養育するために休暇を取得できる制度(5日)

#### 子の看護休暇

小学校就学前の子を看護するために年間5日の範囲内で休暇を取得できる制度(場合により10日)

#### 育児時間

1日の勤務時間の一部(2時間まで)を小学校就学前の子の養育のために充てられる制度

#### 育児短時間勤務

小学校就学前の子を養育するため、勤務時間を1日3時間55分(週19時間35分)等に短縮できる制度  
※通常は7時間45分(週38時間45分)

#### 介護休暇

養育・育児または介護等のため始業・終業の時刻の変更を認める制度

#### 早出遅出勤務

勤務時間を5～22時の間で変更できる制度(コアタイムあり)

#### フレックスタイム制

業務効率の向上、負担軽減及び両立支援を図るために自宅で勤務する制度

#### テレワーク

業務効率の向上、負担軽減及び両立支援を図るために自宅で勤務する制度

防衛省職員の  
ワークスタイル事例集



防衛省職員のための  
両立支援ハンドブック

多くの職員が様々な仕事をしている防衛装備庁。仕事内容と同じく生活環境も一人ひとり様々です。防衛装備庁では、育児や介護等職員それぞれのライフスタイルをサポートする制度を数多く用意しています。



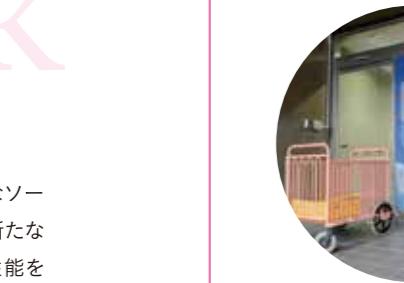
## 現在の仕事

艦艇や回転翼哨戒機が水中を監視するために必要なソナーの研究開発をしています。技術的成熟度の低い新たなセンサの原理実証から、開発された装備品の機能・性能を確認する海上試験等仕事の内容は幅広く、部隊等多くの関係者と綿密に連携しながら取り組んでいます。



## Current Work

防衛省内に保育園を併設しています



市ヶ谷地区  
キッズバオ防衛省市ヶ谷保育園

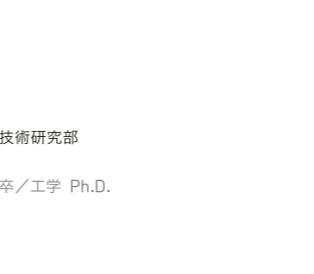
# 若手職員に聞く 学生時代と今

# Before After

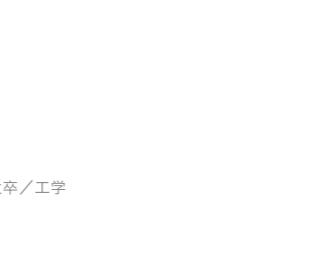
今回は若手の研究職員に、入庁前と入庁後のイメージの違い等の「Before After」を対談してもらいました。さらには、仕事のやりがいや目指す将来のキャリアについての話も飛び出すことに。この対談の中に、数年後のみなさんの未来があります。



今回の対談の参加者



K 防衛技官



Y 防衛技官



N 防衛技官

## 入庁前と入庁後、防衛装備庁のイメージは違いましたか？

Y 艦船の設計では試験場に行くことはほぼないんです。艦船は試作ができない一発勝負。もちろん研究所の大水槽での試験はありますが、最終的には進水時が本番なので、巨大な艦船を実際に試作して試験することはありませんので、試験場への出張は少ないですね。Nさんはグローバルプロジェクトですし海外出張の多いイメージがありますがどうですか？

N そうですね。2~3ヶ月に1回、開催場所は各国持ち回りでの対面会議があるので、海外出張は多いですね。それ以外の会議は、週1~2回でオンラインで実施しています。

## 学生時代の研究は実際には活かせるもの？

Y 海外との調整は具体的にはどんなことをするのですか？

N 多岐にわたるのでなかなか言い表せませんが、各国とも制度や基準、仕事の進め方が大きく違う感じます。

N 私は海ではなく空。次期戦闘機の開発に従事しています。この開発は日英伊によるグローバル戦闘機プログラム(GCAP)として、3か国の政府と企業で進められているプロジェクトです。私は主に設計に関する国内外との調整や、関連する研究開発事業を担当しています。2人は入庁する前、防衛装備庁の研究職の印象はどのようなものでしたか？

K ということは学生時代の研究の延長というよりも、そこで身につけた知見を使ってマネジメントを行っているということですね。

Y 入庁前は文字どおり、個々人が研究に没頭するイメージがありましたね。しかし実際には、関係者との調整業務が多いと感じました。様々なドキュメントの作成や企業との打ち合わせ等が結構あります。設計、座学、会議と分けた場合、3割くらいが設計以外の業務ですね。

N 確かに実際に入庁してみると研究開発業務に留まらず、そういった調整業務が多いという印象を私も持りました。

K 私も同感ですが、デスクワークというより、民間企業の方との打ち合わせが多いと感じています。ちなみに出張はどうですか？私は出張の機会が少ないと入庁前は思っていましたが、実際は試験場や研究機関への出張の機会が結構ありました。

K その点、私は学生時代に推進装置を対象として研究してきたので今の業務内容と直結しています。それこそこれから始まるプロジェクトの技術課題が、自分の

手がけてきた研究課題にマッチしていますね。でも実際、防衛装備庁には学生時代の専門分野と違う研究開発をしている人も多いです。入庁してから配属された分野を学ぶ人の方が多いのではないか。

Y まさに私がそのパターンですね。私は出身が機械工学で、配属先のフィールドが造船工学でした。工学の素養という意味で共通する部分は多くありますが、配属後、一から勉強することになりましたね。でも防衛装備庁は教育研修制度が充実していますし、先輩方が丁寧に教えてくれるのでそこまで不安はありませんでした。

N 一言で研究職技官といつても様々な仕事があるので、そういった意味では防衛装備庁はダイナミックな機関だと思います。

K 部署ごとで特徴や働き方は大きく違いますよね。ある意味そこが防衛装備庁の面白いところ。人も仕事内容も幅広い。なので、どんな人であっても庁内のどこかに自分の能力が活かせる場所がある。自分が活躍できるフィールドを見つけやすい環境だと言えるんじゃないでしょうか。

N 我には、近い将来こうなってみたいと思える技官の先輩がいます。その人はバリバリと諸外国と折衝をしているのですが、その方のすごいところは、こちらの要求を、波風立てず相手に受け入れてもらうことができるんです。国家同士いろいろな主張がありますから普通はなかなかできるものではありません。

K 確かに目指したい先輩がいるというのは職場環境として魅力的ですね。例えば一枚の資料を渡された時、経験が少ないこともあるかとは思いますが、私は書かれている内容をそのままに見てしまう。しかし上司や先輩は、同じ資料を見ているにもかかわらず、私が想像もしない違う視点の指摘をします。誘導武器の開発は長いものだと10年にわたる長期スパンの業務です。なので俯瞰でモノを見られる力は必要不可欠な能力。ですから私は、物事を多角的に、俯瞰して見られる研究職技官になれるようキャリアを積んでいきたいですね。

## 5年後、10年後。 どんなキャリアを積んでいますか？

Y 艦船の場合、最初の入札から船が進水するまでに3~5年の月日がかかります。今はまだ1年目で、自分の考えを込めた設計をできる段階ではないですが、30代前半ぐらいには自分の意思が詰まった船を世に送り出したいですね。艦船は部品が多く、また関係する法律や規制、制度が数多くあります。まずはこれらを熟知するレベルに達しないといけない。先輩を参考にすると4年目あたりでそのレベルに達したいので、そこを目標に先ほどのキャリアプランを叶えていきたいと思っています。

N 私には、近い将来こうなってみたいと思える技官の先輩がいます。その人はバリバリと諸外国と折衝をしているのですが、その方のすごいところは、こちらの要求を、波風立てず相手に受け入れてもらうことができるんです。国家同士いろいろな主張がありますから普通はなかなかできるものではありません。

K 確かに目指したい先輩がいるというのは職場環境として魅力的ですね。例えば一枚の資料を渡された時、経験が少ないことがあるかとは思いますが、私は書かれている内容をそのままに見てしまう。しかし上司や先輩は、同じ資料を見ているにもかかわらず、私が想像もしない違う視点の指摘をします。誘導武器の開発は長いものだと10年にわたる長期スパンの業務です。なので俯瞰でモノを見られる力は必要不可欠な能力。ですから私は、物事を多角的に、俯瞰して見られる研究職技官になれるようキャリアを積んでいきたいですね。

Y まさに私もそうです。私の技術が日本を背負っている、貢献できている。そんな使命感がモチベーションになっています。

K 私も自分の持つ技術や勉強したものが回り回って装備品という形になり、日本の防衛につながっている。そんな実感を感じられる点がやりがいであることは間違いないです。

N 業務内容は違えど、ここは3人共通ですね。

Conversation

# 採用に関するQ & A

## 選考に関する疑問

Q どのようにして採用されますか？

A 防衛装備庁では、国家公務員採用総合職試験、一般職試験のいずれかに受験し、その合格された方の中から、「官庁訪問」を通じ採用選考を行っています。官庁訪問は、国家公務員を目指す就活生にとって最終関門であり、面接等による選考を通過すると採用へと至ります。国家公務員採用試験、官庁訪問の細部については人事院ホームページをご確認ください。

Q 官庁訪問において、国家公務員採用試験の席次はどうなっていますか？

A 主に官庁訪問の面接時の人物評価で採用を決めており、試験の席次は影響しません。

Q 語学力はどの程度必要ですか？

A 採用にあたり外部試験等のスコアの基準を特に設けていませんが、語学力が入庁後のアドバンテージになることは確かです。海外留学、科学技術者交流計画(ESEP, PSEP)、諸外国との共同研究・共同開発等、語学力を活かせる様々な場面がありますので、高い語学力を持つ方を歓迎します。

Q 防衛装備品に関する知識があまりありませんが大丈夫ですか？

A 必要な知識は、入庁後に業務を通じて身につけていくので安心してください。新しい知識や技術を学ぶ向上心と、研究開発のみならず行政にも幅広い関心を持つ方を歓迎します。

Q 学士・修士・博士といった学位別に採用の人数枠は決まっていますか？

A そのような枠はありません。例年、志望者数に占める修士の割合が多いことから、採用者に占める修士の割合も大きくなっていますが、学位による有利・不利はありません。

# 採用情報

## 採用後に関する疑問

Q 配属先(研究所等)はどのように決まりますか？

A 入庁後の初任研修中に配属先の要望や適性等を踏まえて決定します。

Q 配属先で学生時代の専門分野・知識を活かせますか？

A 防衛装備庁では、自衛隊の装備品の創製のための研究開発を実施しているため、大学・大学院生時代に取り組んだ研究内容やその延長線上の内容が、そのまま配属先の研究内容となることは多くありません。しかし、大学・大学院で取り組んだ技術分野そのものではないものの、その周辺技術の知識を活用する研究所等に配属されることが多く、特殊な分野でない限り、まったくかけ離れた技術分野の部署に配属されることは少ないです。

Q 配属後、どのように専門分野を勉強していきますか？

A 研究職技官にとって専門知識を習得することは重要な職務のひとつです。各研究所等にはそれぞれの専門に関する書籍や技術的な資料があり、先輩職員の指導を受けつつ、これらを利用して自ら率先して学ぶことが基本となります。部署によっては、複数人で集まり輪講形式で勉強するところもあります。加えて、実際に研究開発事業に携わると、設計書、試験結果等の様々な技術資料を理解する必要があり、それらの機会を積極的に活用して深い知見を身につけていきます。

防衛装備庁について、もっと知りたい方は

## YouTubeチャンネル

YouTubeにて、研究開発事業や研究所等の動画を配信しています。  
防衛省 防衛装備庁公式チャンネル  
(ATLA Official Channel)をご覧ください。

## 防衛装備庁ホームページ

防衛装備庁に関する様々な情報をお手軽に確認できます。  
アクセスは[こちら](https://www.mod.go.jp/atla/)

## 総合職

### 採用予定区分

国家公務員採用総合職試験  
(院卒者試験・大卒程度試験)

「工学」「化学・生物・薬学」「数理科学・物理・地球科学」「デジタル」

### 採用実績

区別別の採用実績

採用年度	国家公務員採用総合職試験(院卒者試験・大卒程度試験)			
	工学	化学・生物・薬学	数理科学・物理・地球科学	デジタル
2019年(H31)	15(1)	1(0)	0(0)	—
2020年(R2)	12(3)	4(1)	1(0)	—
2021年(R3)	13(0)	0(0)	1(0)	—
2022年(R4)	15(1)	2(2)	0(0)	—
2023年(R5)	10(0)	3(0)	1(0)	0

1.( )内は女性の採用数で内数。2.( )は該年度にその区分での採用者がいなかったことを示す。3.「デジタル」区分は2022年度試験より新設。

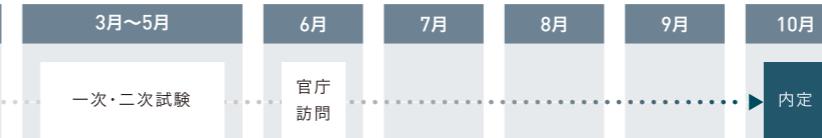
### 主な勤務条件 2024/1/1現在

採用時の給与は、階級、勤務地等によって異なります。表は、新規卒業者の研究職技官が東京都特別区内に勤務した場合の一例。

院卒者試験 博士卒	研究職俸給表 2級33号俸の場合	337,680円
院卒者試験 修士卒	研究職俸給表 2級17号俸の場合	295,320円
大卒程度試験 学士卒	研究職俸給表 2級5号俸の場合	265,080円
手 当	住居手当、通勤手当、扶養手当、超過勤務手当、期末・勤勉手当(いわゆるボーナス)等	
勤務時間	1日7時間45分(原則として土曜日、日曜日、祝祭日は休み)	
休 休暇	年20日の年次休暇(4月1日採用の場合、採用の年は15日)、病気休暇、介護休暇、特別休暇(夏季・年末年始、結婚、忌引き、ボランティア等)	
そ の 他	育児休業、育児短時間勤務、早出遅出勤務、フレックスタイム制等の体制も整っており、活用している職員が多くいます。	

### 採用スケジュール

国家公務員採用総合職試験



詳細は、人事院ホームページをご覧ください。

官庁訪問

内定

## 一般職

### 採用予定区分

国家公務員採用一般職試験(大卒程度試験)  
(高卒者試験)

「デジタル・電気・電子」「機械」「物理」「化学」  
「技術」

### 採用実績

区別別の採用実績

採用年度	大卒程度試験		高卒者試験
	デジタル・電気・電子	機械	
2019年(H31)	1	4(1)	0
2020年(R2)	1	4	0
2021年(R3)	1	2	0
2022年(R4)	2	1	0
2023年(R5)	2(1)	5	0

1.( )内は女性の採用数で内数。2.( )は該年度にその区分での採用者がいなかったことを示す。

### 主な勤務条件 2024/1/1現在

採用時の給与は、階級、勤務地等によって異なります。表は、新規卒業者が東京都特別区内に勤務した場合の一例。

一般職(大卒程度)	研究職俸給表 1級25号俸の場合	242,040円
一般職(高卒者)	研究職俸給表 1級5号俸の場合	200,400円

手 当 住居手当、通勤手当、扶養手当、超過勤務手当、期末・勤勉手当(いわゆるボーナス)等  
勤務時間 1日7時間45分(原則として土曜日、日曜日、祝祭日は休み)  
休 休暇 年20日の年次休暇(4月1日採用の場合、採用の年は15日)、病気休暇、介護休暇、特別休暇(夏季・年末年始、結婚、忌引き等)  
そ の 他 育児休業、育児短時間勤務、早出遅出勤務、フレックスタイム制等の体制も整っており、活用している職員が多くいます。

### 採用スケジュール

国家公務員採用一般職(大卒程度試験)



詳細は、人事院ホームページをご覧ください。

官庁訪問

内定